



みず 水のさと かながわ「子ども親水啓発事業」

れいわ ねんどはつこう
令和8年度発行

いのちの水 生きている川

～みんなの手で、かながわの水を守り、育て、つなげよう～

このリーフレットでは、県内各地の小・中学校における川や池、水を題材にした学習の実践例を紹介しています。川や池には多くの生き物が生活し、それらは私たちの生活を豊かにするとともに、潤いを与えてくれています。学校や地域での自然の観察や生き物の飼育などを通して、生き物の誕生や成長、生命の大切さについて学んでいきましょう。

また、自然の仕組みの素晴らしさを知るとともに、私たちのいのちの源である、水について調べたり、限りある水資源を大切に守っていくことについて考えたりしていきましょう。

さが 探そう！海の生き物！

遠足で、真鶴町の三ツ石海岸へ行き、海の生き物の調査を行いました。子どもたちは、できるだけ多くの生き物を見つけようと、磯の石をめくったり、水たまりの浅いところを探したりしながら、友達と声をかけ合って意欲的に活動しました。カニやヒトデ、ウニなど、さまざまな海の生き物を見つけるたびに歓声が上がり、じっくりと観察したり、動きや形の違いに気付いたりする姿が見られました。

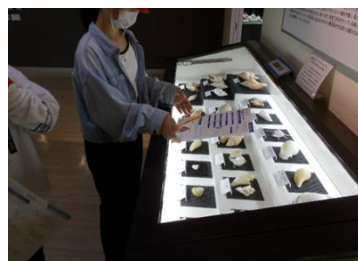
また、遠藤貝類博物館では、世界中から集められた色や形の異なるさまざまな貝を見学しました。初めて目にする珍しい貝の大きさや模様に驚き、自然が生み出す多様さや美しさを実感している様子が見られました。

実際に海に行き、生き物と出会う体験を通して、子どもたちは自然の豊かさや不思議さを実感しました。また、生き物が暮らす環境に目を向けることで、自然を大切にしようとする気持ちも高まりました。その後の総合的な学習の時間では、学びを身近な地域へとつなげ、湯河原町の自然について調べ、自分たちの住む地域のよさを考えていく学習へと発展していきました。

(湯河原町立湯河原小学校)



つかまえた海の生物の説明を受ける児童



遠藤貝類博物館で貝の見学

水はどこから？

桜井小学校では、今年度、4年生社会科の学習「水はどこから？」の単元において、「扇町水再生センター」の方々に来校いただき、出張授業をお願いしました。「蛇口の水はどこから来ているの？」「学校みんなが使っているのに、途切れないのは何でだろう？」といった問いをもとに水に関する学びを深めました。

出張授業では、顕微鏡で水に潜む微生物の観察をしました。「何か動いてる！」「かわいい！」など、子ども一人ひとりが思ったことを口に出し、気付きの多い時間となりました。

その後、校外学習で「扇町水再生センター」へ行きました。水がきれいになる過程を見学させていただき、「水は勝手にきれいになるわけではない。」「きれいにしてくれる人や微生物がいるから、自分たちにもできることをしよう。」と自分の生活に生かせるような学習にすることができました。



水の中の微生物を観察している様子



扇町水再生センターの方々に出張授業をしていただきました！

(小田原市立桜井小学校)



水がきれいになるまでの過程

YMH ～寄(Y)の生き物を 見(M)つけて広(H)め隊～

寄地区には、中津川と虫沢川が流れています。4月、5年生の総合的な学習の時間のテーマ「寄の自然」をもとに、子どもたちは「川にはどんな生き物がいるのかな？」と考え、課題づくりをしました。

川の生き物調べは、カゲロウやヘビトンボ、カワゲラ、プラナリア、トビケラ、カジカなどを見つめ、図鑑で調べると、綺麗な川にしかない生き物だということが分かりました。この貴重で美しい寄の自然をみんなに伝えたいという思いをもった子どもたちは「中津川生き物図鑑」をタブレットを使ってまとめ、学習発表会で発表しました。

県の森林インストラクターの案内で、やどりき水源林にも行きました。中津川が、小さな沢や湧き水が集まって流れてくると、森林涵養実験によって手入れされた森林が豊かで美しい川を育むことを学びました。また、地元の林業に携わる方の協力を得て、間伐材の活用方法についても学ぶなど、森林と水のつながりについて理解を深めました。(松田町立寄小学校)



水生昆虫調べ



やどりき水源林での森林涵養実験



中津川生き物図鑑

ひきじがわたんていだん 「引地川探偵団」

大越小学校の周りには、徒歩20～30分の距離に、環境省の重要里地里山に指定されている石川丸山谷戸や引地川があり、豊かな自然に触れ合う学習が可能です。令和6年度、2年生では生活科の学習で石川丸山谷戸へ行き、生き物探しをしました。藤沢市みどり保全課の方をお招きして、水中生物やどんぐりの話をさせていただきました。令和7年度は、4年生が「引地川はきれいなのか」を調べるため、調査活動を行いました。生息する生き物によって川のきれいさが分かることを知り、実際に川へ行き、生き物を探しましたが、一回目はあまり生き物を捕まえることができませんでした。そこで、近隣の大学の先生をお招きして、見つけ方を教えていただき、二回目のチャレンジではたくさんの生き物を捕まえることができました。また、調査の中で引地川は鮎がいくらいきれいな川であること、しかし過去に一度汚染されて生き物がいなくなったこと、何度も洪水に見舞われたことなど、知らなかったことをたくさん知ることができました。

ふじさわしりつおおこししょうがっこう
(藤沢市立大越小学校)



ひきじがわ い ものさが
引地川での生き物探し



たくさんとれたモクズガニ

ちく まも 「みずほ地区のよさを守ろう」

みずほ小学校の学区には親水公園があります。この公園は、湧水を利用した流れや池のある自然型公園で、ゲンジボタルをはじめ、昆虫や植物など、さまざまな生物を観察することができます。そこで本校では、総合的な学習の時間を通して「みずほ地区のよさを守ろう」をテーマに、ゲンジボタルの飼育活動に取り組みました。はじめに、ホタルの一生や生育に必要な環境について調べ、自然との関わりについて学びました。その後、飼育環境を整え、命を大切に育てる活動を進めました。活動を通して、当初はあまり関心のなかった子どもたちも、世話を続ける中で少しずつ関心が高まり、現在では積極的に取り組む姿が見られるようになりました。

また、2月には金目エコミュージアムの方の協力のもと、放流会を行いました。子どもたちは「5月の観察会で見られるのが楽しみ。」と期待を膨らませながら、地域の自然環境と生き物とのつながりを学び、命を大切にする心や環境を守ろうとする態度を育むことができました。

ひらつかしりつしょうがっこう
(平塚市立みずほ小学校)



ようちゅう
ホタルの幼虫



ほうりゅうかい ようす
放流会の様子



しいく
ホタルの飼育セット

「生き物たちの大切な家 金目川」

平塚駅から秦野方面へバスで20分。金目小学校の近くには、田んぼや里山の景色が広がっています。学校のすぐ南にある金目川には通学橋という橋がかかり、たくさんの子どもたちが川を渡って登校しています。

今年度、2年生の生活科の学習で「金目川の生き物探し」を行いました。東海大学の北野教授や研究室の学生さん、金目川水系流域ネットワークや金目エコミュージアムの地域の方々にもご協力いただきました。

川に到着すると、北野教授から「川の生き物がどこに隠れているか」や、網の使い方のコツを教わりました。教わった通りに、川底の石を足でガサガサと動かして網を構えると、たくさんの生き物を捕まえることができました。

小さなエビやすばやく動く魚の赤ちゃん、石の裏に隠れていた水生昆虫など、普段見ているだけでは気づかなかった命がたくさん溢れていました。北野教授は、見つけた生き物の名前や、金目川がいかに豊かで美しい川であるかを優しく解説してくださいました。

自分たちの手で捕まえた生き物を観察することで、金目川がただの川ではなく、たくさんの生き物たちの「大切な家」であることを実感しました。この素晴らしい自然をこれからも守っていききたいと、2年生みんなで強く感じた一日になりました。

(平塚市立金目小学校)



生き物探しの様子



捕まえたエビや魚

問い合わせ先 神奈川県教育委員会教育局支援部子ども教育支援課

〒231-8588 横浜市中区日本大通1 電話 (045) 210-1111 (内線) 8217